

1 梨の生育状況

梨の結実は、いずれの品種もやや少ない～少ない園地が多く、果実の大きさにばらつきが見られます。

梨の果実肥大は、6月12日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が32.0mmと前年、平年並みとなっています(前年値32.6mm 平年値31.9mm)。

黒星病の発生は、過去4年間の同時期と比較して、いずれの品種も少ない状況です。ただし、現在梅雨時期であること、7月初旬頃から「幸水」の果実に感染しやすい時期となること等から、今後の発生防止対策の実施が極めて肝要です。

虫害は、カメムシ類が山手・平場ともトラップに平年よりも多数誘殺されており、被害果も見られています。今後の発生についても、注意が必要です。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

6月12日の発病状況調査結果では、いずれの品種においても、前回調査(5/15)以降、罹病果実、葉の発生・拡大は少なく、H27年の多発年以降、発病果そう率は0.5%と最も少ない状況です。

(R元年2.8%、H30年17.2%、H29年7.2%、H28年6.3%、H27年45.8%)。

表 R2年 黒星病発生状況(調査日:6月12日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
豊水	27	1.1	0.0	0.1	0.5	0.7	0.1	0.0	0.0
新高	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	0.5	0.1	0.1	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0

【参考：昨年同時期の発生状況】
表 R元年 黒星病発生状況(調査日:6月12日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	2.8	0.4	0.3	0.3	1.6	0.1	0.2	0.0
豊水	27	4.6	0.2	0.1	0.4	3.6	0.1	0.2	0.0
新高	14	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	2.8	0.3	0.2	0.3	1.9	0.1	0.2	0.0

②気象データによる感染危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日～6月15日の間で感染危険度の発生日数は、昨年と同程度で少ない状況でした。

＜黒星病感染危険度の発生日数および指数＞

	4月	5月	6月	計
R2	0 (0)	1 (1.2)	4 (2.2)	5 (2.0)
R元	1 (1.5)	2 (1.6)	3 (2.5)	6 (2.1)
H30	7 (4.6)	10 (5.7)	2 (2.7)	19 (5.0)
H29	3 (1.9)	9 (2.4)	4 (3.1)	16 (2.5)

※ () 数値は、感染危険度指数(0～9までの10段階評価で、数値が大きいほど危険度が高い)

☆直近では、6月11～15日にかけて感染危険日となっており、潜伏期間(15日)を経た、6月27～30日頃に果実や葉に発病する可能性があります(特に、5月から発生が多い園地では注意が必要です!!)。

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
12	6月23日～25日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	3日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類	
13	6月28日～30日	ダニゲッター フロアブル 2,000倍	前日	400 ㍓	ハダニ類 ニセナシサビダニ	
<p>○殺ダニ剤の散布前に草刈りを実施して下さい。 ○黒星病の発生が多い園地ではユニックス顆粒水和剤 47 (2,000倍:21日前まで) を加用して下さい。</p>						
14	7月3日～5日 (満開75～77日)	ストロビードライフロアブル 3,000倍 (Qo I 剤) オーソサイド水和剤80 1,000倍	前日 3日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病	
15	7月13日～15日 (満開85～87日)	オンリーワンフロアブル 2,000倍 (DMI 剤) ベルクートフロアブル 1,500倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	前日 14日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病 シクイムシ類、カメムシ類 ケムシ類	
16	7月23日～25日 (満開95～97日)	ネクスターフロアブル 1,500倍 (SDHI 剤) オーソサイド水和剤 80 1,000倍	前日 3日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病	

○カメムシ類の発生が多いことから、今後の発生状況によっては殺虫剤の散布時期を変更する場合があります(その際は特報にてご連絡します)。

【重要項目】

- 第14～16回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、散布間隔は10日以上空かないよう、また、雨前散布に努めて下さい。
- 現在現れている病斑(新たな感染源)を放置すると、罹病果実の多発の原因になりますので、見つけ次第園地外で適切に処分してください。
- 短果枝群、側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤透過が劣り、感染・発病を助長させる原因となりますので、摘果作業と並行して新梢管理(芽かき、新梢の切除)を実施して下さい。

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシクイは「幸水」の収穫期間中にも発生しますが、農薬防除対応が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図って下さい。

	内容	注意事項
設置本数	50本/10a	<ul style="list-style-type: none"> ●ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ●傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ●周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬から8月初旬 (「幸水」の収穫前までに)	
設置間隔	約4.5m間隔(1樹あたり1～2本程度)	

5 摘果作業について

着果数の少ない樹では、新梢の発生が旺盛になっています。このような樹に対しては、着果数確保を優先として、通常であれば摘果するような、小玉果、斜形果、すじ果なども可能な限り残し、適正着果量(右表)を維持し、新梢の過繁茂を防いでください。

仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100～120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10～11果	5～6個	290～320果/樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果/樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果/樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果/樹

※補正摘果基準表が必要な方は、資料を配布しますので選果場にお越しください。

6 【富山市からのお知らせ】生産者のパート・アルバイト募集情報について

コロナウイルスの影響で不足が予想される各生産者のパート・アルバイトの求人情報を富山市のホームページに掲載し募集します。掲載を希望される方は申込書をお渡ししますので選果場にお越しください。